LaLaLa Library

2023年 7月号

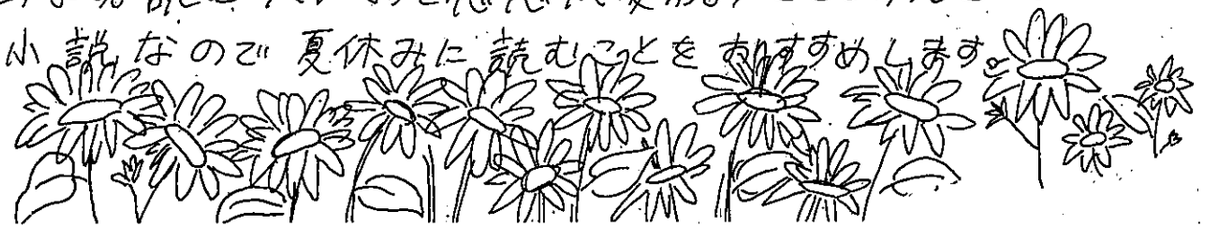
図書委員会 広報班

いよいよ暑さが厳しくなる頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。今回は夏に読むのにぴったりな小説を紹介します。ぜひ図書館に寄って読んでみて下さい。

『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』

桜庭一樹

この物語は、主人公の山田なぎさの学校に、海野藻屑（もくず）という少女が転校してくることから始まります。藻屑は、外見はとても美しいのですが、自分は人魚だと言い張ったり、破天荒な言動をすることで周囲から浮いてしまいます。そんな藻屑に一方的に懐かれたなぎさは仲良くなるにつれて藻屑の異様に気づきます。身体にたくさんの痣（あざ）があったり、歩き方に異変があったりなど、藻屑はなにかがおかしい……。作中のところどころにある伏線、藻屑の意味深長な言動、残酷な結末からさかのぼった構成がこの物語の特徴です。結末が分かっているのに続きが気になってしまう不思議な魅力を持っています。読む人によって感想が変わる、とても考えさせられる小説なので夏休みに読むことをおすすめします。



『夏の庭 ― The Friends ―』　湯本 香樹子

町外れに暮らすひとりの老人をぼくらは「観察」し始めた。

生ける屍のような老人が死ぬ瞬間をこの目で見るために。

夏休みを迎え、ぼくらの好奇心は日ごとに高まるけれど、不思議と

老人は元気になっていくようだ…

切ないけれど、なんだか爽やかな気持ちになる一冊です。

『サマーウォーズ』　細田 守

数学しか取り柄がない高校生の健二は、憧れの先輩・夏希に婚約者のふりをするバイトを依頼される。一緒に向かった先輩の実家は田舎の大家族で…?!

OZ（仮想世界）で起こる人工知能の暴走で、現実世界を巻き込みテロに発展。田舎町で起こる一夏の健二の成長物語です。

『彩の国の怖い話』　能面リリこ・寺井広樹

本のタイトル通り、彩の国（埼玉県）で起きたこわい話がたくさん書かれている本です。たまに挿絵があるので割と読みやすいです。怖さを感じたい人は絵を隠して読むことをおすすめします。埼玉らしさを感じる話はないのですが、埼玉で起こっていると思いながら読むと少しだけ怖さが増すので埼玉県民におすすめの本です。